

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第9回高松市創造都市推進懇談会（U40／2期）
開催日時	平成28年6月30日（木） 18時30分～20時30分
開催場所	市役所3階 32会議室
議 題	・今後の進め方（1・2期の振り返り／3期に向けて）について ・ビジョン各論に対する事業評価について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	鎌田委員、香西委員、児島委員、坂口委員、高島委員、田中委員、谷委員、中筋委員、西成委員、英委員、人見委員、眞鍋委員、若宮委員
職 員	土岐創造都市推進局長、橋本産業経済部長、平田産業振興課長補佐、 溝渕産業振興課長補佐、塩田産業振興課係長、田山農林水産課主査、末澤産業振興課員、藤本地域振興課員、永木産業振興課主査
傍 聴 者	0人 （定員 5 人）
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

審議経過及び審議結果

- 1 開会
- 2 事務局新メンバーの紹介
- 3 今後の進め方（1・2期の振り返り／3期に向けて）について

新たな御意見は特になし。

事務局からのコメント要旨は下記のとおり。

- ・みなさんから率直な御意見をいただき感謝している。
- ・3期については、平成29年度のビジョン改定と時期が重なるので、みなさんの意見を反映させながら、ビジョン見直しを中心に進めたい。
- ・2期が初回のメンバーには、事務局として引き続きお願いしたいと考えているが、3期の継続について意向確認をさせていただきたいので、別途日程調整してお話を伺わせてほしい。
- ・明日7月1日～7月15日の間、公募委員（4名）の募集を行う。
- ・メンバー構成について、年代やジャンルに多様性をという声が多くあった。3期の人選について、こんな人がいるよという情報があれば是非教えてほしい。

4 ビジョン各論に対する事業評価について

各論6つのテーマについて、同じテーブルになった人と議論しつつ、各自ワークシートに記入していった。それぞれの御意見については、別紙のとおり。

交流空間

この分野に関する自分の取り組み

- ・公開U40ではこのプロジェクトを選び、高松駅～商店街を繋ぐランニングマップを提案した
- ・商店街の店で仏生山ことでん温泉チケットを売る。イベントを仏生山と共有。同じイベントを2カ所でやる
- ・ゲストハウスの宿泊客に向けて、市内各地で催されるイベント（まちなかパフォーマンス事など）や屋島などを積極的に紹介している。**ある特定の日だけに開催されるイベントの情報を、県外、海外の旅行者が事前に入手することは難しい。屋島も、栗林公園やこんぴらさんに比べれば、知られていないし、魅力を伝えづらい**
- ・まちかど漫遊帖にて、お客様に高松を好きになってもらえるように活動してみた

一市民として感じる、2年間の成果

- ・**レンタサイクルが県外客に好評**→もっと県下に拡大できる??
- ・**人の流れをつくる取り組み**・・・商店街→仏生山 **とても良いと思います**
- ・屋島や玉藻公園、栗林公園などで行われているイベントは明らかに増えていると感じます
- ・商店街も屋島も栗林公園も、私が高中生だった頃に比べれば、市民にとってずいぶん親しみやすくなったと思う。地元民にとってみれば、屋島や玉藻公園はわざわざ行くところではないが、近年盛んにイベントが開かれているので、足を運びやすくなった
- ・まちなかパフォーマンスや高松城を活かした事業、屋島山上ライブなど、参加してみたい魅力的な行事があり、一年間楽しませてもらった
- ・ことでんの温泉切符のように、他施設や他地域との連携
- ・イベントはとても多く質も高いと感じている

一市民として感じる、2年間で見た課題

- ・**城アプリは失敗だと思う**→失敗を前向きに見直してほしい
- ・**サンポートは扇町に高層マンションができて景観としては最悪のものになるであろう。本来ならプールや砂浜を整備して瀬戸内海への眺望をつくる**→交流空間
- ・単体イベントが多い印象。もっと連携したらにぎわい拡大につばかりそう
- ・**島と街中との交流がない**
- ・海と陸が生活の中でつながっていない。
- ・**レンタサイクルでは行きづらいような、もう少し遠いところに行く手段がない（鉄道路線のない地域）**
- ・**海と街をつなぐという意味での回遊は本当にできている?**→瀬戸芸は外の人は動くけど、高松の人は動いている??
- ・**イベントは良いがイベントをやっていない日常の高松港周辺は交流空間とは言えない。公共空間の整備や車道の歩道化を進めるべき**
- ・**島々、屋島、仏生山などは元気になっていると感じるが、塩江が難しい…。温泉の魅力も今となっては仏生山が上**

だと感じるし、虫は一時的だし、アクセスが特に悪い。それでもわざわざ来させるだけの仕掛けがあればいいが…

- ・合併町との約束を守るために無駄なものが増える。コミセンのまわりに Wi-Fi を。
- ・中央公園を日常的に市民が利用できる空間（場所）にしたい
- ・南部スポーツ施設については、二転三転して、何がしたいのかよくわからなかった。必要性がないとわかっているが、同じ税金を使って建設するのであればもっときちんとしたものにしてほしかった。成果ではうまく書いているが、協議の場での説明にあまり納得ができていない
- ・オンデマンドバス／オンデマンド SHIP

この分野に関する新しい提案

- ・**ランニングマップ**：紙面ではなくデータで、個々のランニングルートを共有できる仕組みづくり
→Instagram や Twitter など無料 SNS を活用して仕組みがつかれないか（紙面だと、店や街並みが変わるたびに更新(刷り直し)経費が必要になるため)
- ・**島でのフォトロゲイニング開催**
 - ・お遍路との交流
 - ・K P I を設定して、成果をきちんと把握していく
 - ・多核連携型コンパクトエコシティの「核」が浮かび上がるゴールイメージが求められているのだろうか
- ・「つながる」意味で、**交通政策も一体化させることが可能かも**
- ・**レンタサイクルを用い、鉄道との連携事業。サイクルトレインを増やす**
 - ・お遍路タクシー（乗合タクシー）は好きなところで乗り降りできるので、路線のない地域をケアできる（五色台周辺など）
 - ・使っていない公共施設の開放
- ・**高松競輪もしくは中央公園に野球場を作ってほしい**
 - ・ゲストハウスは小規模なので、市内のイベントやさほど有名ではないスポットについても、旅行者にきめ細やかに案内することができる。しかし、ゲストハウスよりも圧倒的にキャパの大きいホテルとなるとどうか。**市、観光協会、イベント主催者などによるホテルへの積極的な営業活動がほしい**
 - ・動物園がないことが市民としてはずかしい
- ・**ため池をライトアップなどして観光化（プロジェクションマッピング）**
 - ・スポーツ施設もそうだが、白紙への戻し方が悪かった
 - ・地域コミュニティの主体性に期待したいというような視点もあればいいな

食

この分野に関する自分の取組み

- ・H28/12 に「かがわ生涯スポーツフォーラム」にて、女性の身体とスポーツというテーマで、女性スポーツプレーヤーの身体に必要な栄養学について話していただく予定
- ・食育に関して、体験学習等を行っている
- ・ガイドマップをH27年制作委員長として発行しました。過去の発行部数をキープしながらホテルですべて完売状態までなりましたが、残念です
- ・県産品を使用した料理会を著名なうつわ作家の展示と連動して、アート工芸⇔食の相互効果を企画
- ・コミュニティセンターや放課後子ども教室での地産地消の料理教室
- ・有名店ではなく、地元民である私が実際に食べて旨い！と思ったうどん店、骨付き鳥店、居酒屋を宿泊客のニーズに応じて紹介している
- ・地元の歴史ある食べ物を祭り等の機会をつかって、子どもたちに食べてもらったり、紙芝居を作って説明したりした
- ・EATBEATを企画運営しました。また放棄地だった畑を耕して野菜や綿を育てました

一市民として感じる、2年間の成果

- ・食については充実しているように思う
- ・EATBEAT！
- ・アスパラ大騒ぎ・・・動員がすばらしい
- ・口から入るものの大切さ→身体をつくるもと。特に子どもたちに知っておいてもらいたい
- ・さぬきマルシェや市場開放、アスパラ大騒ぎには私も行くことがあるが盛況。市民が食に関心を持ついい機会となっている

- ・イベントだけでなく、家で収穫した野菜や果物をおすそわけするようなコミュニティの形成
- ・何よりも食べ物は人の関係をよくする
- ・若い農家が増えているなど感じます

一市民として感じる、2年間で見えた課題

- ・地産地消ということばが表面的で本質的に何のためにやっているのか誰も考えずにこの言葉を使っていることに違和感
- ・産直がまちなかにほしい。JAがやっている産直は意味ない
- ・フードマイレージの遠さ（意識の問題）。実際の距離の遠さではなく、流通などの問題で意識が食から遠ざかっている人達にどうやって食を伝えていくか
- ・マルシェの場所はシンボルトワーと合同庁舎ではなく、ことでん築港の前の芝生など商店街と港の導線上に朝マルシェをやるべき

- ・さぬきマルシェ in サンポート 駅前マルシェ 是非！
- ・市単体での取組みに制限すると、活動が縮小
- ・県外に対してはあまり知られていない
- ・有機野菜など小規模農家の産品を駅前で買えない（産直はほとんど郊外型）
- ・良くも悪くも食のイベントが多くなった。地元の盛り上がりはあるけど、県外に発信できていない
- ・マルシェやフェスタにアスパラと魅力的な事業があり、参加したいという欲求にかられた。若い人たちにむけて、食のイベント = 高松おもしろいことしてるやん でこれからもがんばってもらいたい
- ・他の音楽イベントなどもそうだが、これら食のイベントも学生の来場者は少ないように感じる。四国新聞も市報も、**夕方のローカルニュースも市のSNSもしていない層というのまだまだ結構いて、それが学生ではないか（フェイスブックはおじさんおばさんのツール。若者はツイッター）**
- ・パッケージばかりで中身がともなっていないもの
- ・市はイベントを開催するより告知を！

この分野に関する新しい提案

- ・**地産地消型の飲食店支援**
- ・外国産業の見直し 地産地消→居酒屋
- ・食 = 手間ひまをかけて料理をすとか、自分で作ろうとする気持ちを育むことが、この頃の根底にあってほしい
- ・**学生へのアプローチ。官製のSNSだけでは厳しいのでは**
- ・台湾、中国、香港からの旅行者の大半が、市内のスーパーで国産の果物を買ってきて食べている。ベタな観光手法とはいえ、「果物狩り」をもっとインバウンドターゲットに展開してほしい
- ・**魚をさばく、家畜をほふる、種をまく、といった食の来し方、命のいただき方を体感できる機会を**
- ・**素材の成育から口に入るまでの過程を教育できないのかな**
- ・郊外で良いので、**農地付きの家を移住者向けに提案する**
- ・子どもの孤食の問題などをここに入れてはどうか
- ・無駄な梱包はやめたい。再利用可能なものに
- ・女性の身体とスポーツというテーマの講座を年1～2回継続開催したい→高松市内の管理栄養士や産婦人科等と連携して

生活工芸

この分野に関する自分の取組み

- ・伝統的ものづくり企画展示セミナーのディレクション
- ・AJIPROJECT を店内で販売、企画展を実施
- ・Bonsai café をお手伝いしたことがありますが、素敵な取組だと思いました
- ・普段から漆器を使用する←子どもにとっては当たり前になる
- ・工芸に関心のある人には、菓子木型の市原さん、盆栽に関心のある人には鬼無の中西珍松園さんを紹介しており、どちらもかなり好評を得ている

一市民として感じる、2年間の成果

- ・匠のおもてなし事業の認知向上
- ・Bonsai café を完遂しました
- ・高松市には魅力的な工芸品がたくさんあると思います。それぞれの工芸をPRしていく活動、庵治石のプロジェクトなどは新しい取組みだと思う
- ・shiro café
- ・匠のおもてなし事業
- ・先日、東京で瀬戸内をテーマに工芸展があったとき、漆器が出展されていました。

一市民として感じる、2年間で見えた課題

- ・shiro café に行った時、市民は楽しめるが、**観光客は高松にどんなものを求めているんだろう…**と考えた。もっと田舎らしいもの…??
- ・生活工芸祭ができなかったこと
- ・**生活工芸祭を開催したり、工芸高校があつたりするわりには、「生活工芸」が市民の暮らしに根付いているような気があまりしない**
- ・ジャパブランドなど海外や国内の大規模市（ギフトショー／ジャパンデーなど）に出展することがゴールになっている
- ・**全体の来場者を成果としてカウントするのをやめてほしい**
- ・**補助金を入れて生かす工芸は自然淘汰されるべき**
- ・伝統工芸補助は自由競争と新規参入を阻害している
- ・**工芸品の職人の育成につながるよう事業ができているのか**
- ・パッケージや広告を重視し、本質がおろそかになっている
- ・**子供連れターゲットのものが、全ジャンルを通じて少なすぎる。カップルでは楽しめると思うが…。**
- ・昔ほど産業としてもうからないが、生活できないほどの衰退でもない。幸福感を見直すことで、次世代もやってみようと思うジャンルも多いと思う

- ・展示しているところが知られていない
- ・盆栽もそうですが、どんどん売出すべき。宣伝力がいまいち足りない？内側に向けても大切だけど、外側に向けてが重要では？
- ・市民も盆栽や漆器が高松の伝統産業であると知っていても、その価格や扱いの難しさ（難しそうというイメージ）から、生活に取り入れようという感じにはなかなかならない

この分野に関する新しい提案

- ・**工芸と観光をつなげるツーリズム**（ex.ことடன்、レンタサイクル、伝統工芸の産地をつなげたツアーをつくる）
- ・工芸×観光 情報をまとめて発信する
- ・横浜のカップヌードルミュージアムのような、「もの」をあらためてブランディングできるような**観光・体験スペース**
- ・ヘルシンキのデザインミュージアム
- ・おしゃれを意識せず、泥にまみれたイメージの事業。るみばあちゃんが受け入れられた事実
- ・**小学校区単位でそれぞれの街の工芸品を配る←シビックプライドの醸成**
- ・**小学校に入ると同時に小品盆栽を配布する（小豆島ではオリーブの木を配っている）もしくは、会社を引退するときに配る**
- ・子どもの頃から自然に漆器を使うような仕組み作り（当たり前にしてしまう）
- ・「伝統的ものづくり観光資源 P R 事業」に期待！この分野での体験型ツーリズムにはニーズがある。
- ・**外国人だけでなく家族連れもターゲットに**
- ・作家をまとめたホームページ

祝祭

この分野に関する自分の取り組み

- ・瀬戸芸会期中はやはり宿泊客の大半が瀬戸芸目当てだった。船、バス、レンタサイクルなど、交通に関する情報が十分に発信されてはいるものの、土地勘のない旅行者にとっては理解しづらい。そこをゲストハウスとして、きめ細やかに旅行者からの相談に応じている
- ・年中歌舞伎と祭りの世話にあげられる
- ・かつてトリアスロンに参加しておりました

一市民として感じる、2年間の成果

- ・瀬戸芸の誘客力。認知度が県外で上がっている。しかし香川県（特に島以外の人）が参加できているか？もっと地元の人が参加できる仕掛けは？
- ・明らかにトリアスロンは拡大しており、根付いている感じがする

一市民として感じる、2年間で見た課題

- ・瀬戸芸は島だけで、高松など四国本土側の盛り上がりや地元民のテンションがいまひとつ
- ・イベントがイベントで終わっていないか？次につながるように取り組めているか？
- ・祝祭時はとてもよいが、日常時のまちの魅力（公共空間、商店）向上を考えていく必要があるのではないか
- ・瀬戸芸以外のイベントを県外への周知がない
- ・瀬戸芸が大成功している中、他のイベントを削減する努力を
- ・イベントの担い手不足。イベントとイベントを連携させる人材がいない。古い祭、獅子舞などの継承
- ・春公演等、早くから情報を流しているがうまくリンクできていない。瀬戸芸って海だけのものなの？県との情報共有はどのようになっているのか？
- ・文化財指定されていない地域のまつりもPR
- ・どのくらいのインバウンド？目論見に対して達成度は？
- ・子どもに「とてもオススメ！」という祝祭がないのでは？
- ・子どものときから愛さないと民意は育たないのでは？
- ・仏生山大名行列、高松総おどりを廃止すべき。ゼロベースで再検討。惰性で続ける意味はない。やめる勇気。
- ・仏生山住民としては、大名行列は改善してほしい。よりリアルなものが出来る気がします
- ・高松まつりのリニューアル。市民が楽しめているのか疑問
- ・イベントがだいたいブッキングしていて参加したいのにできない

この分野に関する新しい提案

- ・祭りや伝統文化のアーカイブ化 それをクラウドへ→次のPRにつなげる
- ・アーカイブとセットでこれからのイベント周知をできないかな？
- ・イベントの実施が目的のようになってしまう。本来の目的は経済振興であると思うので、経済的な指標による成果も図って良いのではないか。
- ・「むれ源平石あかりロード」で観光 & 健康づくりを兼ねたノルディックウォーキング(もしくはポールウォーキング)実施
(ことでん八栗駅〜もくもく遊らんのルート) <http://www.sotaiken.co.jp/wgs2/blog/fp/27/>
- ・サポート高松トライアスロンと並行して、スポーツボランティアの醸成に取り組む
→スポーツができない／苦手でも、スポーツに関わって楽しむ手段はたくさんあるという啓発的な活動
- ・日常的に（特に冬）楽しめるものを
- ・「祭り」という地域に根ざした歴史あるもの、もっと地域住民が参加したくなるものが増えると良いのではないか？
- ・定期開催の夜店とか
- ・子ども向けも必要では？
- ・花火大会の拡大
- ・高松まつりは毎年やるのではなく、松山と交互に 2 年に 1 回の開催にし、2 年分の予算を一度に投入する。また対抗戦のムードを醸成でき、人の行き来につながる。

国際会議

この分野に関する自分の取組み

- ・外国人には積極的に声をかけるようにしている
- ・ゲストハウスの宿泊客の約半分はインバウンド。台湾、香港、中国、フランスからが多い
- ・海外の友人を案内して楽しんでもらう

一市民として感じる、2年間の成果

- ・国際的な会議は増えているように感じます
- ・大きなイベントとからめた会議
- ・駅内の通訳・観光案内は目に見えて成果が確認できたと思います
- ・高松駅前の観光案内所が駅構内に入ったのは画期的！スタッフ個々人の知識もおもてなしレベルも高く、私も旅行者も助かっている。
- ・市内フリーWi-Fiの導入も画期的！でも、まだあまり知られていないのもっとPRを
- ・ミラノは良かったと思う。市長が自ら売り込む姿勢はよいと思う
- ・ICTサミットがあったことは個人的に誇りです→でも市民に何のメリットが？

一市民として感じる、2年間で見た課題

- ・「アートシティ高松」の取材を受けたが、動画の取材があまりにもひどかった。市から委託を受けている業者も、更にその依頼を受けた取材者も、「やつつけ仕事」でやっている。素人レベルで、動画はもちろん、アートシティ高松のサイトが外国人旅行者にとって有益とは思えない。ページビューだけで評価するのでもいいの？
- ・高松、香川以外の都市のことを含めてPRすべき
- ・サイン計画、ピクトグラムの必要
- ・国際会議用のマルシェや工芸フェア
- ・国際会議があったとき、もっと市民として関わることがあればいいなと思います。ただ、限られた予算の中でMICEを誘致する必要があるのかと思います。
- ・大きな会議を行おうと思っても、ホテルや会場の関係で開催できない場合が多いとのこと。国際会議よりむしろ国内の会や観光を絡めた誘致の方が良いのでは？
- ・市民のホスピタリティの向上
- ・これも外向けの宣伝の仕方に変化するのでは？と思った。自ら楽しんでやるころいきがほしい
- ・もう少しふみこんだおもてなしの仕方があるのかな？
- ・インバウンド→どれだけ地域に有益なものかということが認知されていない→つまりウエルカムになっていない
- ・どの分野もそうですが、「継続」の反対に「中止」があるべきだと思います
- ・受入体制として、民間事業を巻き込んだ官民一体（来高者から見ると民も官も「高松の人」）の取組みがあればいい

この分野に関する新しい提案

- ・標識の多言語化は簡易な英語表記さえあれば十分。言語を増やすことよりも日本語表記しかないところに **easy English** の併記を進めていくべき。もしくは誰が見てもわかるようなピクトグラム、色、ラインなど、非言語による表記を。中国人もタイ人も easy English かピクトグラムがあれば、中国語やタイ語表記が必要というわけではない
- ・高松港以外での P R 神戸港（ハブ化してそこからの航路を案内）からのスイッチング
- ・高松のことだけでなく、近隣の観光についても合わせて P R していく
- ・小学校での国際交流授業
- ・小中学校での多言語の勉強（文化も含む）
- ・国際会議の会議をとって大きく「国際」ではだめ？国際の中に会議やら含め、もっと広がりがあればいいのでは？
- ・受入体制としての通信環境の整備
- ・来られた方が瀬戸内海の素晴らしさを体感できるクルーズ文化の振興
- ・マチのゆとり、あそびが来られた方の満足感
- ・多様な文化に親しみ受け入れる「教育」もこの項に含まれても良いのでは
- ・デジタルサイネージより、アナログな案内所が大切。J R 高松駅や瓦町駅など効果をあげていると思う

こども

この分野に関する自分の取組み

- ・ACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)の普及 <http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/>
- ・日々の育児
- ・小中学校での特別授業
- ・身近に待機児童の子を持つ先輩がいて、子育てをしやすい環境としてはまだ充分ではないなあと感じている。今後高松で子育てをしていきたいので、周囲から情報収集している
- ・芸術士の方と協力して、子どもたちの作品作りに手をかしていた
- ・放課後子ども教室の運営
- ・小学校での総合学習の指導と校外学習での地域全体での協力

一市民として感じる、2年間の成果

- ・芸術士派遣事業の展示を市美で見たことがある。子どもたちが服を大胆に汚しながら表現している姿を見て、我が子にもこういう体験をさせたいと思った
- ・芸術士の活動はとても子どもにとって良いと思います。もっと県下で活動をひろげてほしい
- ・**芸術士は素敵だなあと**思います
- ・作る、感じる、見る、聞く等、本や紙ベースではできないことを子どもにはどんどん体験してもらいたいので、ものづくりやコンサートなどは良いと思う。
- ・スポーツ少年団の数減少している？

一市民として感じる、2年間で見た課題

- ・無料公園と緑地が少ない
- ・公園に関する情報発信、整理
- ・子どもが楽しめる祭りが少ない
- ・子どもの貧困、教育問題の解決
- ・他の政策すべてに子どもを掛け合わせた視点があるべき
- ・安心してこどもとゆっくり過ごせる場所が少ない
- ・保育園が足りない
- ・公立の幼、保、学校の給食の質にもっと配慮を。保育園で幼児に対して、砂糖がいっぱい入った菓子やジュースを与えているのには驚いた。自宅では絶対に与えないのに。栄養だけでなく、砂糖、油、添加物に気をつけてほしい。
- ・地域密着型スポーツチームが密着しているように感じない
- ・プログラミングなど子ども向けICT教育の少なさ
- ・コミュニティと学校との関係の乖離

- ・安全面を重視するあまり地域と連携が少ない
- ・**子どもの居場所 = 学習塾になってしまっている。多世代で子どもを教育、遊ばせられる場所づくり**
- ・**未婚者でも結婚し、子育てを高松でしたいと思えるような魅力が伝わらない**
- ・保育園が足りない。（預けるのは職場の近く）**共働きをプッシュできる環境は整っていない**
- ・こども園となるところで、市の説明に対して不満が出ているよう。保育所側よりの見方が強く、幼稚園側には不満が残っている。仕事をしているからえらいえらくないではなく、仕事をしていてもしていなくても安心して子どもを預けられる施設を目指すべきでは？

この分野に関する新しい提案

- ・2020 東京五輪開催に向けた「オリパラ教育」を地域単位で実施
- ・こども課の創設
- ・こどもたちの職業体験
- ・子どもが自転車で簡単に行ける範囲にスポーツができるような場所（イベント会場の駐車場をイベントがない時はバスケットのストリートコートやサッカーのコートにするとか）
- ・**すべて子ども目線で施策を進めると、未来の人口が変わるかも**
- ・**子どもの貧困は高確率で負の連鎖、これを切る施策を**
- ・手先を使うような作業
- ・自分で解決する力をつける
- ・せめて小学校卒業までコミュニティで学童を受ける（老人ホームなどとの連動あり？）
- ・子どもの時間は限られているという前提に立つことが大事だと思います
- ・地域コミュニティとのふれあいを軸にした発想があれば、もっと良いのではないかと思います。
- ・子どもが安心して遊べる空間づくり（森の幼稚園みたいな）
- ・地域が一体となった P T C A 活動を

<会長からの補足>

今回このテーマとテーマをつなぐすきまとして、議論されていないもののなかに、「**このビジョンをとりまとめて、最後に実行する人の思考**」みたいなところがあるが、**ここが一番大事。**

先ほど、こどものころから漆器を使ってはどうかという意見があったが、2期の最初に学校給食をテーマに議論した回があって、そこでも話題に出た。衛生管理の問題などがあって、たぶん実現しないのだと思うが、グリーンバレーの大南さんが『**できない理由よりできる方法を考えよう**』と言っている。そういう発想だけが創造都市を推進する。ちょっとやろうと思ったらできる方法が見えてくるのに、**思考や事務的なところが問題になったりして進まないのはもったいないと感じる。**